

# あいかわ 森のようちえん



平成29年10月7日～8日

神奈川県立愛川ふれあいの村

## 10月7日(土) 1日目

前日からの雨が止み、日が差し込み汗ばむほどの陽気となりました。その中で主催事業『あいかわ森のようちえん』がはじまります。17家族53名の方にご参加いただき、愛川ふれあいの村の自然の中でいっぱい遊びました。受付前から親子でのあそびをする姿も見られます。であいのゲームを行ったあとは、家族ごとにお昼ご飯。



午後からは“たんけん”へ家族で出かけます。たんけん中、カキをもいだり、「いい匂い！」と親子で落ちているザクロの匂いを嗅いだり、「昔よく食べていました。」とシイの実を食べるなど村ならではの自然を楽しみました。他にも秋の虫を捕まえたり、土手を駆けあがったり転がったりと体全身を使って遊びました。



「これはなんですか。」と子どもだけでなく大人も発見(観察)に夢中になりました。大きな枝はみんなで持って電車ごっこがはじまります。第3炊事場に着了たら子どもと大人に分かれての活動。草が茂る場所には秋の虫がたくさん。「バッタ! そっち行った!」と夢中で捕まえます。また、急な坂をよじ登り、得意気な子たち。その間、大人とスタッフはお茶やコーヒーを片手に子どもの話しをしていました。



子どもたちはたんけんを終えてロッジに帰ってきました。お父さんお母さんを見るとたんけん前の甘えん坊に戻ります。あれ、さっきまでのたくましい子どもたちはどこへいったのかな。



夕食の後、夜のたんけんに出発。2つのグループにわかれて日中との違いを感じます。耳を澄ませば秋の虫の声がし、他にも「風の音がした。」と言う子もいました。日中も歩いた道ですが、地面の硬さの違いを感じたりと暗くて見えない分、耳や鼻、触った感覚で周りの情報を知ろうとすることを学びました。「暗い。こわいよ。」と言いつつも暗闇を楽しんでいる様子でした。ひとつのグループでは「あっ、何か飛んだ！」とムササビを発見の声。そこからはムササビ捜索がはじまります。ムササビの滑空姿が見ることのできた人は感動していました。

子どもたちが寝静まった後は大人タイムです。1日目の活動の様子や子どもたちのみでのたんけんの様子をスライドで楽しみました。なぜ子どもたちが服を汚してきたのかを見ることで和やかな雰囲気になっていきました。

## 10月8日(日) 2日目

起きたら掃除と朝食です。一緒に部屋に寝た人同士、協力してロッジ全体をきれいにしました。



アウトドアクッキングのメニューは「キノコとカボチャのカレー」「ナン」「サラダ」です。キノコ類は石づきを切り手でほぐし、レタスは食べやすい大きさにちぎります。ナンの生地がまとまるまで力いっぱいこねて、「手からナンがとれない！」と喜ぶ子も。子どもたちも大活躍のクッキングです。包丁で野菜切りにチャレンジ！マッチで火起こしにチャレンジ！！色々なことにチャレンジをしました。



生地のはし方も班によって様々です。薄く延ばす班があれば、厚みを残しフワフワな生地を楽しむ班もあります。カレーはルーが入ると炊事場はカレーの良い香りで包まれます。真っ白だったナンは焼くことで、だんだんきつね色に変わっていく様子も見ることができました。



食べ終わったら、みんなで協力してお片付け。子どもたちは洗い物、大人はすすぎと分担し、使ったナベやイスは倉庫に運びます。みんなの協力で予定の時間より早く片づけが終わったので、子どもたちはたんけん、大人はロッジでカフェタイム。子どもは自ら積極的に生き物探しや木のぼりなどに取り組んでいました。

2日間、見たり聞いたり、嗅いだり、触ったりと五感をフル活用して遊んだ森のようちえんでした。その中で生き物との関わり方、自然の中での遊び方を身につけていきます。今後、公園やハイキングにお子さんで行かれる際の糧にさせていただけたら幸いです。自然遊びを是非、親子で楽しんでください。

文責：石川